

## 玉原ブナ林の山と越後紅葉の名山を沢ルートからも ニケ禿山・巻機山

実施日	2014年10月11日(土)~12日(日)
天候	晴れ
C L	佐藤 政司
S L	涌井 良明
参加者	涌井良明、山崎富美恵、白石恵美子、石附智江、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、徳山敬子、小名秀鋭、佐藤政司、瀧澤きよの、峯川弘子、清水久子、島本陳重(巻機ヌクビ沢のみ) 計16名
費用	交通費(クルマ利用のため各車で精算) 宿泊費 6,000円(2食付)
タイム	10/11 玉原センターハウス(9:40~55)玉原越トンネル・ニケ禿山登山口(10:47)ニケ禿山(11:30~12:12昼食)玉原ダム(13:10)玉原センターハウス(13:40~14:00)清水集落・民宿おのづか(15:30) 泊 10/12 民宿(5:50)桜坂下二子沢川沿いP(6:00)桜坂P登山口(6:10) ・尾根 登山口(6:20)5合目(7:20~23)6合目(7:58~8:06)7合目(8:40~50)9合5勺避難小屋(9:47~10:00)御機屋・巻機山(10:20)最高点(10:30~45)割引岳(11:10~20)ヌクビ沢合流点(11:30~12:00昼食)御機屋(12:20~30)避難小屋(12:50~13:00)7合目(13:50~55)6合目(14:17~25)5合目(14:40~55)桜坂P(15:20) ※下山時6合目~桜坂は先行者タイム

今週も秋の山岳美を楽しむ山行計画になった。2日間共台風直前の晴天に恵まれた。1日目のニケ禿山は地味ではあるが、思いの外味のある山で会った。季節と天気良かったことが影響しているの言うまでもないが。2日目の巻機山は言わずと知れた越後の名山で、〇〇百名山

にも選ばれて、特に秋の紅葉は素晴らしく毎年多すぎる登山者が押し寄せている。

また谷(沢)から頂稜に突き上げるルートも美しい滑滝始め幾つもの滝が紅葉に映え素晴らしい沢登りが出来ると人気がある。今回当会では初めて本格的な沢登りともなるヌクビ沢から割引岳のルートも計画した。

10/11 今日は上州玉原高原にあるニケ禿山へ明日の足慣らしを兼ねて歩くことにした。

3連休初日で心配した交通混雑もクリアして、各地から赤城PAに集合後、玉原高原センターハウスに向かう。

センターハウス前のPは既にほぼ満車、好天の連休で多くのハイカーが訪れている様だ。建物脇の歩道に入ると高原だけあって紅葉も良い具合に見られる。ぶなの湧き水過ぎて、玉原湿原入口から木道に入る。この木道も幾分古さと痛みも目立つようになってきた。

やがてミニ尾瀬とも称される玉原湿原が開ける、草紅葉と青空で心地よい。木道を進んで湿原を周回するように進み、時々見る導標にも促されて森の道を歩く。

ブナが多くこの山塊は熊の生息域だが、今年はブナが全く実らない森も多いと聞くが、クマさんの冬眠準備の食だめも大変だろうも。

一旦、玉原越の道合流、更にセンターハウスから続く林道に出て緩く登って行く。

通行止めのトンネルに出ると、ニケ禿山登山口である。直ぐ小沢の小さな流れを渡ってすっかり秋たけなわになっている森の中の山道を辿る。黄色く

染まる樹間からの差し込む日射しがキラキラしている。この道は登山者の姿も少



なく濃い自然林の趣きを残している。それ程きつい登りもなく静かな山道を進み、送電塔を過ぎると朝日の森の分岐になり、その先で山頂への分岐になる。南側が開けた尾根に出て僅かで尼ヶ禿山に着く。狭い山頂だが、玉原湖を見下ろし上州武尊が意外と近くカッコ良く見え、皇海



山の姿も目立つ。更に迦葉山への連りの奥にゆったり裾を広げる赤城山、子持山、榛名、妙義

など上州の山々が見える。

昼食を済ませてから、下山は玉原ダムに向かう、山頂直下の分岐から右へ下る、やや藪っぽいのはっきりした道を下る。

歩く人は少ないと見え、狭く荒れ気味で山奥を漂うような気分でもあるが。

その割には時々現れる導標はしっかりとしている。途中で森林学芸員と遭遇、不思議な枝を持つ翌檜(あすなろ)を教えてもらう。彼らがいなければ気付かなかっただろう。迦葉山への縦走路と別れて玉原湖畔路へ出た。

右へ玉原ダムへ。

ロックフィルダムで近くではかなりデカイ大したダムである。



ダムサイトを渡って車道沿いの遊歩道でセンターハウスに戻った。

楽しいライトハイクになった。

14時に玉原を後に、六日町(南魚沼市)清水の宿に向かう。

民宿(おのづか)着後、夕食時に後続メンバーも付いてひとしきり盛り上がり、明日の巻機山に備えて今夜はオシマイ!

10/12 山の稜線が明るくなり始めた頃、桜坂Pに向かうが、二子沢川の橋付近で対向車が川沿いに駐車し始めている。やはり上は既に満車状態のようだ。

我々も川沿いに停める(ここは無料なので結果オーライだったかも)

桜坂Pの登山口で急遽参加のS氏と合流後、ヌクビ沢と井戸尾根の2班に分かれて巻機山を目指すことになる。

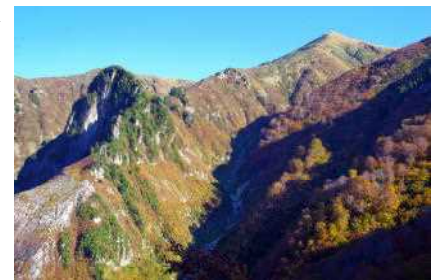
### ◎井戸尾根コース

登山口直ぐに沢・尾根との分岐である。右へ進み殆どの登山者が利用する井戸尾根の入口になる。さて今年の色付き具合はどうだろう?などと思いつつ登り始める。何となく通り慣れた懐かしい感じがする。岩ごろの混じった登りからやや緩い尾根道になりじっくりと歩く。やはり人は多く、抜かれることも多いが、その歩きで山頂まで持つのかと思わせる人もいたりする。



1時間で5合目の展望台に着く、米子沢に掛かる滝の眺めが良い。6合目までは美しいブナ林の広がる道から徐々に灌木が混じるようになり、この辺りは丁度黄葉が見頃である。

6合目で眼下にヌクビ沢を見るが、ここから人影は確認できない。特異な天狗岩とピラミダルの割引岳のビューポイントである。樹木が次第に低くなって森林限界になると7合目で、多くの登山者の絶好の休憩ポイントとなっている、我々も周囲を眺めつつしばし休憩である。巻機山から南へ朝日岳へと続く



稜線のうねりが美しい、遥かに清水峠の避難小屋も僅かに望める。何度も登っているが、これ程遠望が良いのは珍しいかも知れない。



7合目からは青空の下の急登になる、振り返る山肌は朱く染まって綺麗だが、今年はピークが過ぎてしまった様で、ややくすんでいるのはちょっと残念だ。

7合目からは青空の下の急登になる、

振り返る山肌は朱く染まって綺麗だが、今年はピークが過ぎてしまった様で、ややくすんでいるのはちょっと残念だ。

ニセ巻機までの登山道は、表土が薄い  
ため裸地化が進み土砂流出防止の階段を  
つけ、ネットも取り付け植生再生を  
図っているが、押し寄せる登山者に自然の  
回復力が追いついていけるか心配である。  
南魚沼市には貴重な観光資源なので  
上手く両立して行ければ良いのだが、な  
かなか難しい問題か？ でも、山ヤとし  
ては大規模スキー場開発とロープウェイ  
構想がポシャったのは良かった？

ニセ巻機から尾根を回り込む様に登ると  
杵ノ頭の美しく色  
分けされた山肌が  
視界に広がる。



すぐ先のピークが9合目の前  
巻機(ニセ巻機)  
になる、木道を  
下って避難小屋に、ここもで大勢の登山  
者が集っている。

後は目の前の急坂を残すだけとなる。  
少し登ると一旦平地になるが、この付  
近は初めて訪れた時(40数年前の夏)は緑  
の絨毯のような湿地帯に池塘が点在し、  
高山植物が彩りを添えていた。木道もな  
く靴が潜るのを気にしつつ通過した思い  
出がある。その何年後かに訪れた時には、  
緑の絨毯はすっかり消え失せ、ぬかるみ  
と小さな水たまりと化していた。その後  
マキハタの自然保護が動き出し木道が敷  
かれ植生再生が図られてやっとここまで  
回復してきた。前回来た時より良い状態  
になっているかも。次はもっと以前に近



い湿地帯に戻っ  
ていることを期待し  
たい。山頂への急  
な登りも階段と石  
が置かれ裸地化を  
防いでいる。急登  
が終わると巻機山

山頂の標柱のある御機屋である。

沢組の姿は見えないので、右へ最高点  
に向かう。やはり  
御機屋ではなく  
最高点にまで  
行く登山者が殆  
どであり、いず  
れ最高点が巻機  
山頂とされるよ



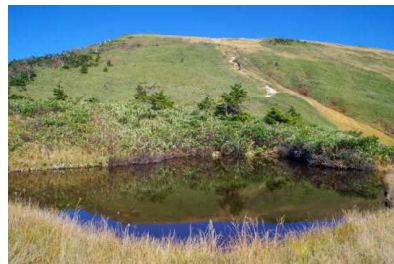
うになる日も近いかも知れない。自然保  
護もあって置いた山頂だが、狭い最高点  
の周囲が踏み荒らされなければと願うし  
かない。

巻機から朝日岳へ伸びる越後山脈の山  
稜が魅力的だ。見るとトレースしてみたい  
と思わせる山稜である。もう無理かな？  
写真を撮って御機屋に戻り、沢組  
と合流すべく割引岳に向かう。

稜線を一旦北側に回り込み少し下っ  
て、尾根に戻った僅かで、ヌクビ沢から登  
り着く終了点に  
出る。すぐ上に  
割引岳なのでそ  
のまま山頂へ、  
標柱と祠のある  
狭い頂だが素晴  
らしい眺望だ。



越後平野から山域に目を移すと何と言っ  
ても越後三山の姿が存在感がある、その  
右奥には背伸びする様に荒沢岳、若かり  
し頃Tと辿った中ノ岳に続く山稜、そし  
て間近に巻機山の一角の牛ヶ岳など青空  
に映えている。久し振りの割引岳からの  
眺めを堪能してヌクビ沢合流点に戻り昼  
食タイムにする。10月にしては暖かく  
のんびりとしてしまうが、沢グループの  
姿は一向に見えない。時間的には到着に  
はもう遅いくらいである。下山時間を考  
慮して12時にケルンにメモを残して下  
山を開始した。多少けだるさも感じなが  
ら御機屋へ登り返し、往路に戻る。



ニセ巻山頂から  
合流点がよく見  
えるが、丁度沢  
グループが割引  
山頂から降りて  
下山にかかるの  
が確認できた。

ヤレヤレ無事に登り切ったようである。

ニセ巻機から尾根を回り込むと山頂部  
の絶景ともお別れして、ひたすら下るの  
みになる。7合目、6合目、5合目と休  
みを入れながら下り、桜坂登山口に降り  
て天候に恵まれた2日間の歩きも無事  
に完了した。沢グループと合流後お世  
話になった民宿でお茶と山菜の漬物を  
サービスしてもらって、各車で帰路とな  
った。

(記&写真・涌井 良明)

## ◎ヌクビ沢コース

民宿を全員で出発し桜坂駐車場に着了たとき強力な助人S氏が待ち構えていてくれました。その事を知らなかった私たちは驚きと感謝でいっぱいでした。

井戸尾根コースメンバーと別れ、後の厳しさもまだ分からずにルンルンでヌクビ沢へと進んだ。



川原では、快適に石を飛び越え左右の山肌を感じ中央には空の青さを増し、沢歩きを体験した事のない我々

には素晴らしい景色でした。

所どころある滝には巻道があり、渡渉するも水に入ることにはない。

高度を増すにつれ楽しんでい

はなくなってきた。鎖を掴み岩を登り、渡渉を繰り返す。巻道は足場が悪く支える木々も頼りなく、又手も届かず厄介な連続だ。



ヌクビ沢出合に着いた時ほっとするもつかの間、布干岩の名の通り大きな一枚岩を軽快に登らなくてはならず、足を止めようものなら岩下に落ちてしまいそ



うな花崗岩を一気に進む事となった。しばらく進むと目の前に行者の滝が。右に巻くがそこで何度目かのヒヤリ感をいやとい

うほど味わう事になった。落石せぬよう充分な注意が必要。

それ迄の何回かの小休憩時では山肌の紅葉、空の青



さ、それに加え白い岩、そこを流れる大小の滝、透きとおった水、と今迄に味わった

事のない素晴らしい地球を感じていた。

終盤、沢の水が枯れ始めた所から更に難所が続き急登なうえ足場は悪くなり、草を掴み四つんばいで登り尾根に出た。



井戸尾根コースの方の置メモからすでに下山した事を知り、我々も

割引岳と向かい戻った所で昼食。当初合流の予定が沢コースが遅れたようだ。はるか先に井戸尾根が見え5, 6人パーティーが歩いている。後に知ったのだが、やはりこぶし会メンバーがニセ巻機山付近で手を振ってくれたようだ。

昼食を済ませた後は井戸尾根メンバーを追いかけるように巻機山、ニセ巻機山、出発点へと向かった。

沢を登る装備をしっかりしたいくつかの小パーティーを見た。彼らは本当に楽しそうに快適に登っている。ブログに載っている様な人達であろう。

沢登り初級コースとの事だが初体験者の多いパーティーで先輩方々には多大な協力いただき感謝の言葉は尽きません。本当に有難うございました。明日への一歩になりました。

(記・中村 友子)

巻機山は数日前から雨もなく秋、沢も尾根も絶好の登山日和となり、当会初の沢登りルートも計画したが、初にしては距離も標高差もある沢で時間もそれなりにかかってしまった。やはり事前に短く簡単な沢歩きを経験してからが良かったと反省する点でもある。

そんな中、沢ルートを引き受けてくれたリーダーやサポートメンバーもあって、尾根ルートからの行程も実施できたことは良かったと思っている。

沢を登ったメンバーはヘルメットやスリングなどの装備も準備もしており、当会でも山へ向かう姿勢が本物志向になってきたことは嬉しく思う。

そろそろ、古い山やは潮時か…?

(y・w)